

第 6 回 田辺市都市計画マスタープラン策定委員会 会 議 録

日時:平成 21 年 10 月 30 日(金)
14 時 00 分から 16 時 30 分まで
場所:田辺市役所 本庁4階 第1委員会室

1. 開会

(1) 田辺市建設部 より挨拶

田辺市建設部	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、第 6 回田辺市都市計画マスタープラン策定委員会にご参集下さいまして、誠にありがとうございます。 ・今回は、西部地域などの地域別構想、更には都市計画マスタープランの全体内容等について、ご議論していただくことを考えております。 ・皆様の活発な議論をいただくことをお願いし、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。
--------	---

(2) 委員長あいさつ

委員長	・みなさんの活発な議論を頂ければと思います。
-----	------------------------

2. 議事

(1) 策定委員会(第 5 回)の内容について

(資料) 第 5 回 田辺市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録

《質疑応答》

- 特になし -

(2) 策定委員会(第 6 回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第 6 回)資料

- ・計画の前提
- ・現況と課題
- ・全体構想

《質疑応答》

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道や観光に関わる利用者はともに減少している。総合計画の 4 つの重点プロジェクトについて、実施の順位と費用の投資をどのようにしていくことが将来的に有効なのかを検討すべきである。 ・10~20 年後も人口は減少すると考えられるが、財源はどうするか? また、そうした状況において、戦略的に対応するか(人をまちに呼び込む)又は受動的に対応するか(自然の流れにおいて政策を考えるか)で、マスタープランの内容も変わってくる。
事務局	・現時点において、10~20 年先の積極的なプランを約束するのは難しい。右肩下がりであることは現実として受け止めなければならない、すぐに右肩上がりになるような手法も現実問題として難しい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には積極的なプランとして、個性を活かして例えば滋賀県長浜市のように観光都市としての展開を考えてはと思う。但し、都市全体がテーマパークのように偏ったものになっては困ると思う。 ・委員会の限界もあり、最終的には行政判断(市長など)が必要になると思う。委員会で意見を集約して、行政に提案などを行えば良いと思う。

委員	・近年、鉄道から高速バスに利用客がシフトしているとも考えられる。バスの利用変化は把握しているか。
事務局	・現状では把握していない。
委員	・あくまで一市民としての意見ですが、人口減少や環境問題を踏まえると「動植物と人間の境界」を考える必要があると思う。つまり、平地や盆地など元々集団で住んでいた場所に人が集まり、コンパクトな都市となることが良いと思う。都市計画では、個別の道路整備や宅地開発の議論が多くなるが、100～200年を見据え、人と動植物が地球で生きるためにどうすべきかを考慮したものとしていきたい。
委員	・委員会は事務局が一定のたたき台としてのプランを提案し、それに対して専門的な意見を言う場でもあると思う。 ・専門的な意見を踏まえ、網羅的な計画になったから価値がないというものではないと思う。また、4つの重点プロジェクトについては、いずれも最低限の事項であり、優先順位をつけることができない。
委員	・まちづくりの方針を能動的にしていくなか受動的にしていくなかに関するのだが、人口が減少していく危機感は抱いている。しかし、人口減を前提としたまちづくりを行うのではなく、市民がより良い生活ができるように、地域づくりを行うべきだと考えている。
委員	・テーマパーク化された都市になっても良いと思う。保守的ではなく、もっと変化に重きを置いた積極的な取り組みを行えばと思う。そうした思いきった取り組みが、市外への流出が目立つ若い世代に対しては、必要ではと思う。
委員長	・若い世代の思いは大切であり、まちに住みたいが仕事がないことは、まちの責任と思うこともある。長浜市の黒壁(会社)では、地元の若者が働くなど雇用対策につながっている。人口減少を防ぐためにも、若者がまちに住み続けたいと思うようなまちづくりをしていく必要がある。
委員	・都市計画マスタープラン(案)をみると、市民目線では心に響かない内容となっている。都市計画区域と用途地域の見直しなどでは夢がなく、おもしろくない。自分たちは何ができたのかと思うとさみしい気がする。郊外で住む人にとっては、総合計画であがっている地域再生プロジェクト(山村地地域などの再生)についても、本都市計画マスタープランに記述をしてほしいと思う。 ・都市計画区域周辺についても、準都市計画区域などを検討すべきであると思う。都市計画区域外の建物は、規模によっては、建築確認申請が不要あり、耐震性などの財産保護の視点から、適切な規制を行うべきと思う。
事務局	・上位計画である総合計画の4つの重点プロジェクトについて、都市計画の中で対応できる内容は、本都市計画マスタープランに反映されていると思っている。 ・準都市計画区域の適用や都市計画区域外における建築確認義務付けについては、この場で具体的な内容を議論するのではなく、段階的に議論を深めることができればと思う。また、都市計画区域と用途地域の見直しについては、市民の意見を聞きながら進めていきたいと思う。

(3) 策定委員会(第6回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第6回)資料
地域別構想

(質疑応答)

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・以前のものと比べると良くなつたが、まだ住民にわかる言葉や表現にすべき箇所があると思う。(例：ユニバーサルデザインの言葉の意味、ポケットパークと小公園の違い) ・「城下町としての名残」は、「城下町のまち割り」という表現の方が正しいのではと思う。自然と川づくりは対極であることから「多自然川づくり」ではなく、「自然にやさしい川づくり」という表現なら理解できる。「創出した宅地における漁業環境」の言葉の指す意味がわからない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘を踏まえ、できるだけわかりやすい言葉や表現に修正する。なお、用語の説明を巻末に整理しようと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が増加している郊外部に住んでいる。世代を超えた地域交流ができる場があればと思う。また、個人的には釣りが好きで、川釣り・海釣りが両方、楽しめるというすばらしい自然環境を活かすなど、観光客を引き寄せる取り組みを宿泊施設と協力しながら考えればと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・三四六公園の整備の方向性がわかりにくい。既設の遊具のある場所は、猫が多く出入りしている。管理が行き届いていない感じを受ける。もっと地域に住む子供のことを考えた都市計画としてほしい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード事業はソフト事業がしっかりしていないと意味がなく、その両方が大切だと思う。

(4) 策定委員会(第6回)資料について

田辺市都市計画マスタープラン策定委員会(第6回)資料
現実化の方策

(質疑応答)

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に言えることだが、ありきたりの内容が多く興味が薄れる。事務局として、今までにないものを作ったと思うのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ありきたりで教科書的との指摘だと思うが、その通りの部分もある。市として都市計画マスタープランを作成するのは、今回が初めてであり、これまでは総合計画に即して、都市計画行政を実施していた。都市計画の行動指針である本都市計画マスタープランを、市民や専門分野の方のご意見を取り入れながら作成したことは、重要な意味を持っていると思う。 ・まちづくりと都市計画を明確に区分して表現することも難しいと思っている。このため、都市計画マスタープランは、様々な分野と関連した内容を記載することとなり、網羅的になることは否めないと思っている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な話としては、これだけの内容を良く取りまとめて頂いたと思う。 ・人口減少やそれに伴う衰退はある程度、仕方がない。しかし、観光に関しては、多くの観光資源(温泉や道の駅等)を有していることから、もっと民間活力を利用すれば、良くなると思う。なお、観光機能の充実には、交通アクセスの強化は不可欠だと思う。 ・文中の「創出」は「創造」でも良いかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本都市計画マスタープランの成果は、都市計画区域の見直しの方向性のみという趣旨の意見があったが、区域の見直しは大きな成果だと思う。また、財政が厳しい中、市役所本庁の耐震化が明記されていることは評価できる。 ・都市計画では都市の基盤整備を行い、具体的な集客などの取り組みは、民間を含めた各専門分野の方で、実施して頂ければと思う。委員の意見を踏まえた都市計画マスタープラン(案)が作成されており、本会議は非常に意義があったと思う。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な環境の中で、記載しにくい議案もあったが、よく取りまとめて頂いたと思う。事務局には感謝している。 ・アンケートにより、高校生は生活のための就職先、余暇の場の充実を望み、市民は医療、福祉、防災の充実を望んでおり、住民目線ではあるが、田辺市の現状と将来での進むべき方向性が現れている。 ・田辺市は財政面では負のスパイラル(悪循環)に突入している。現実問題として行政が何らかの方策を行うためには、財源がなければならず、的確な行政運営を行う必要がある。 ・都市計画としては、地域の将来像(ゾーニングなど)を明確にしたうえで、動線としての道路などの整備、土地利用としての用途地域などの見直しを行っていくというまちづくりのプロセスが明確になってきていると思う。 ・具体的には、「都市計画行政の行動指針の明確化を踏まえた取り組み方針」での機能的な道路網整備に向けた都市計画道路の見直しや「的確な施策と財源確保」での優先性や効果を見極めた的確な施策などしっかりと記載されていると思う。「住民定着」「税収増」「施策の展開」「更なる住民定着」という循環が大切である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・副委員長がおっしゃるとおりであり、これから詳細な計画を進める中で、更に検討していきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・財源、人口など問題は山積みだが、弱点を逆手にとって考えることが重要であると思っている。 ・公園については、子供の遊び場ではあるが、危険も多く含んでいる。今後、公園を整備改善する際には、子供の母親の意見を聞く場が必要。 ・新庄総合公園の野外ステージは、あまり使用されていないように思う。今ある施設を活用し、活性化に力を入れて欲しい。 ・住民主体のまちづくりとあるが、官と民との活動はいつも一定までは進むが、その時点で終わってしまうことがあると感じる。後の活動に活かされていないと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の管理部署と協議をしていく。遊具点検等、公園管理には注意を払っていく。 ・野外ステージについては、今後の活用を考えていかなければならないと考えている。 ・官民の活動履歴に関しては、行政の横断的な連携が不足していたことが大きな理由だと思う。今後は、更なる行政内の連携強化をはかっていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントで市民の意見を聞く際には、「パブリックコメント」という言葉の使用について配慮して欲しい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の中で、どこで何をするか、どんなものをつくるかは行政だけでなく住民の意向も重要である。様々な人の意見の集約が必要であり、本委員会も夢のあるまちづくりにつながっていくものと思っており、県としても今後も協力していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・良い都市計画マスタープランを作って頂き、ありがたい。 ・既存の屋内の体育施設が小さく、空気が流れが悪い。できれば、市内に大きな屋内の体育施設があればと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 12～17年の人口減少は、地元での就職先の減少が原因であると個人的には考えている。何故、行政などの機関が積極的な対策を講じなかったのかが疑問である。 ・正社員の求人は、和歌山市では多く、田辺市では減っている。JRの運営方針にもなるが、新快速のようなものができ1時間程度で和歌山市まで通勤できるようになれば、田辺市の人口も維持できるのではと思う。

委員	・本都市計画マスタープラン(案)は、膨大な内容なのでもう少し早く資料をいただきたい。
----	--

3.閉会
事務局より挨拶

以上